

1. 題材 第5学年家庭科 「家族とくらすわたしの生活」(東京書籍)

2. ねらい

自分の一日の生活をふり返り、自分の生活についてさまざまな課題をもととする。(関)

自分の生活時間についてふり返り、改善しようとしたり、家族との時間について考え、ふれあいの時間をもとと創意工夫したりする。(創)

家族の一員として責任をもって仕事を分担し実行できる。(技)

家族が自分の成長や生活に深いかかわりをもっていること、家庭は、家族の生活にとって大切な場であることを理解する。

また、家族は、協力し合って生活していることを知り、家庭の仕事を理解する。(知)

3. 指導計画(7時間)

次・時間	小題材名	ねらい	育てる資質能力と指導上の留意点
1 1時間	わたしは家族のひとりです	・ひとりで生きていないことに改めて気づき、家族の人々によって支えられていることを理解する。	【社会的・役割的性差意識の解消】 家族の生活を支える仕事を女性の仕事・男性の仕事と分けるのではなく、家族の一員として進んで分担して行うとともに、協力してよりよい生活を築いていこうとする考え方を養う。
2 2時間	家族の仕事を考えよう	・自分が生活していく上で、家庭にはさまざまな仕事があることを理解する。 ・家族は協力し合って生活していることが分かり、自分にできることはないか考える。	
3 2時間	わたしの生活時間を見直そう	・自分の生活時間を見つめ、有効的な使い方を工夫する。 ・家族とのふれあいや団らんの時間を見つめ直す。	【思いやりの心】 家族とのふれあいや団らんが楽しくできるよう、家族への思いやりをもって自分の生活時間の有効な使い方をしようとする態度を育てる。
4 2時間	家庭の仕事にちょう戦しよう	・家庭の仕事をすることは、家族の一員としての責任であり、また自立していくために、大切なことであることを理解する。 ・仕事を分担し、実行する。	【生活的自立】 男女を問わず、日常生活を営むための基本的な能力を身に付けさせるようにする。

4. 実践例及び成果と課題

(1)実践1

2次では、家庭の仕事を種類、分担について調べさせ、気づいたことを話し合わせた。その結果、家庭の仕事は、母親を中心に行われていることがわかった(図1・2参照)。話し合いの中でも、母親がたくさん仕事をしていることに驚いている児童が90%もいた。さらに「お母さんを手伝いたい」という子供が3人いた。家族が、家庭の仕事を分担しなければという考え方を養う上では、家庭の仕事調べは、効果的であったと考える。しかし、「お父さんの分担が少ないのは、外で仕事をしているから」と考えている子供が1人いた。

(2)実践2

4次では、自分にできる家庭の仕事を分担し、1週間実践させた。仕事の分担について、表1から役割的性差意識はなかったと考える。また、子供達は、1つの仕事に対して学級平均で、5.6日仕事をした。感想では、「大変だったけれど、やってよかった。」「続けてみたい。」と述べていた。

親の感想としては、肯定的な考えが多かった。家族の一員としての基本的な能力を身に付けることへの期待感も伺える。

今後の課題は、子供達が、家族の一員として、自分の仕事を継続的に行うために、生活点検表などを用いるなど、日常的な取り組みが必要であると考え。また、家庭科の他の題材などでも実践していくことが大切であると考え。

表1 自分にできる家庭の仕事分担ベスト3

	第1位	第2位	第3位
女子	靴並べ	配膳	ふるそうじ、食事の片付け
男子	靴並べ	ふるそうじ	配膳、ふとんの片付け

